

～ ようこそ天理参考館へ ～

天理参考館は、世界各地の文化や人の暮らしが分かる道具、美術品などを集めた博物館です。当館は、世界各地の生活習慣や歴史などの知識を深めるため、天理大学創設者、中山正善氏によって1930年(昭和5年)に創設されました。国内外から集められた収蔵品30万点のうち3千点を「世界の生活文化」と「世界の考古美術」のテーマで常設展示しています。

氏名	年 組 番
	年 月 日

1階・2階：「世界の生活文化」を知ろう

Q1：次の①～⑤の展示品はどここの国・地域のものでしょうか？( )に国・地域名を記入しましょう。

① 人力車

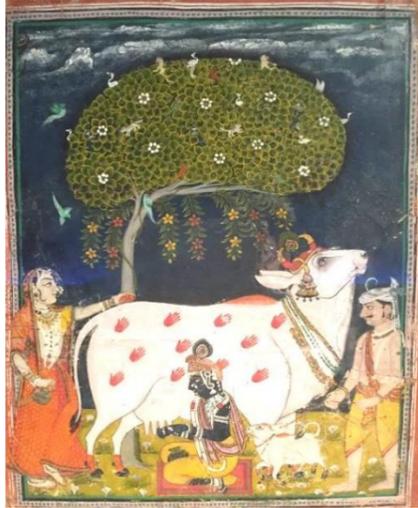
( )



江戸時代、庶民の移動手段は徒歩や駕籠(かご)、船などでした。明治時代のはじめに発明された人力車は、スピードが速く運賃が安かったため、全国に普及しました。それは便利さとともに新しい時代の到来を感じさせるものでした。

② 細密画「クリシュナ王子」

( )



牛の乳をしぼる青色の肌をもつ神さまであるクリシュナは、非常に人気のある神さまです。クリシュナは牛飼いに育てられました。牛はミルクやチーズを人に与えるだけでなく、クリシュナの仲間であることから、神聖な動物とみなされています。

③ チャンスン

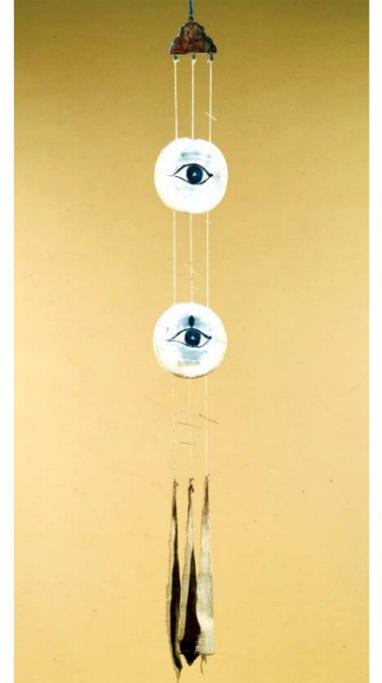
( ) 半島



現地で「チャンスン」と呼ばれるこの柱は、まるで鬼の様な形相をしていて、胴体には「〇〇將軍」という文字が見られます。村に災いが入って来ないように入口に見張り番として立てられていたものです。近年はほとんど姿を消してしまいました。

④ 眼薬屋の看板

( )

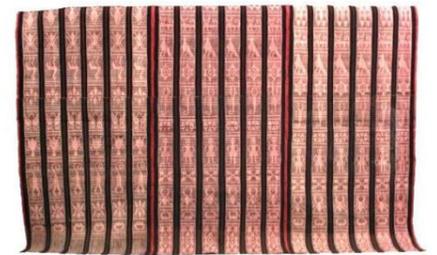


布製の2つの円盤にそれぞれ「眼」が描かれています。この図柄には、「当店の薬をつけるとこのように美しい眼になる」と宣伝しています。円盤をつるす3本の紐(ひも)に結びつけられている棒は、眼薬をさす時に使用する道具です。



⑤ 貝紫染めのスカート

( )



紫の模様を出すためには、糸を紫色に染めます。「ヒメサラレイシ」という小さい貝から採れる分泌液で染色するのですが、乱獲されたために貝の生息数が減ってしまいました。「幻の貝紫」と呼ばれることもある貴重なものです。

Q2：次の展示品はいったい何をするものでしょう？【 】にあてはまる言葉を記入しましょう。

⑥資料名：クラウ(インドネシア バリ島)



左は【 】を削るのに用いる台です。刃がついている方を頭にして、三脚の上の木に馬乗りに座り、ギザギザとした鉄の刃先で果肉を削ります。

⑦資料名：サトウキビ圧搾機(日本 鹿児島県大島郡徳之島)



長い木の棒を牛馬にひかせて歯車を回転させ、【 】を差し込んで絞ります。その絞り汁を煮詰めると【 】ができあがります。江戸時代、奄美地方を支配下においていた【 】藩の大きな収入源になっていました。

### 3階：「世界の考古美術」から歴史を学ぼう

Q3: 次の展示品はどこの国・地域の、どの時代のものでしょうか？ 下記の年表を参考にして【 】に記入しましょう。  
また、【 】にあてはまる文字を入れ、資料名を完成させましょう。

国・地域【 ① 】 【 ② 半島・ 】 【 ③ 】 【 ④ 】  
【 】時代 【 】時代 【 】時代 【 】時代



せいそうだんし 盛装男子 【 】 (重要文化財)

はちべんれんげもんのみまる 八弁蓮華文軒丸 【 】

【 】 しんしょう 神将

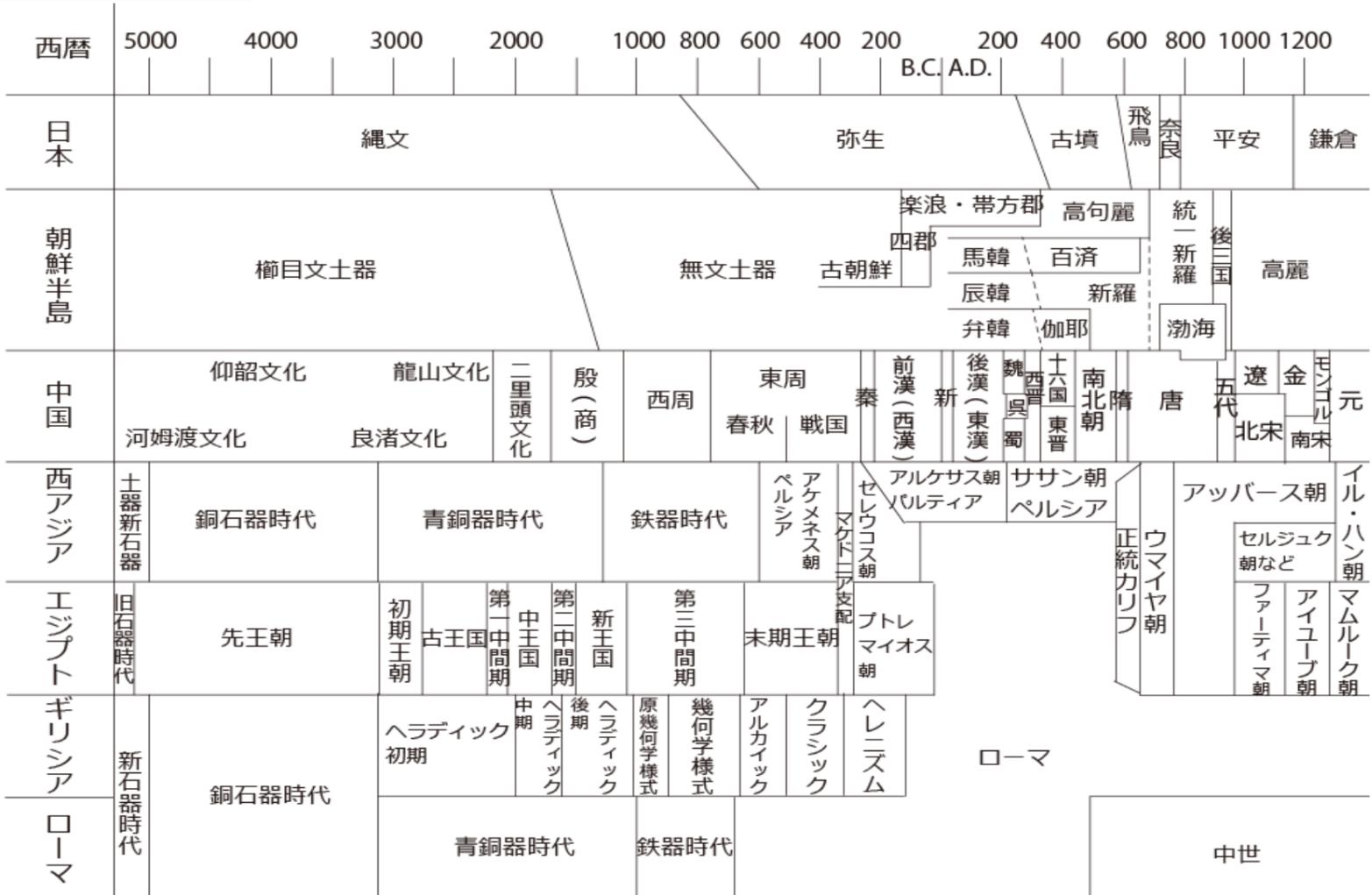
せんりよくがんせい 閃緑岩製 【 】 どうぞう 頭像

日本では約1500年前に、一人の権力者のために古墳をつくる風習がありました。埴輪は古墳の上に並べた焼き物です。この埴輪は冠（かんむり）をかぶり、髪を結び、首飾りをつけた男性です。古墳に眠る権力者の姿と考えられます。

今から1400年前、朝鮮半島の百済（くだら）の技術者は、飛鳥寺を建立（こんりゅう）するために日本へやって来ました。その時に瓦の作り方や瓦の文様の描き方を伝えました。百済の瓦と飛鳥寺の最初の瓦がよく似ているのは、そのような理由があるからです。

三彩と呼ばれる華やかな色合いの焼き物で作られた大型の神将（しんしょう）像。恐ろしい表情で邪鬼（じゃき）を踏みつけにし、勇ましく立っています。右手には武器を持っています。邪鬼から墓主を護る役割を担った守護者です。

グデアは、シュメールの都市国家の1つ、ラガシュに実在したの王。目を引くのが、グデア自身を彫刻した像。敬虔（けいけん）な信者であることの証（あかし）として自らの像を神に奉納しました。グデア像は、世界で30点余り知られています。



Q4: 次の展示資料はどのような文物なのでしょう？ 説明文中の【 】にあてはまる言葉を記入しましょう。

⑤資料名: かんしきけいどき 韓式系土器 (奈良県天理市布留遺跡/古墳時代)

⑥資料名: かへい 古代の貨幣 (中国/戦国時代)



布留遺跡からは朝鮮半島からもたらされた土器が出土しています。それには褐色（かっしょく）のやわらかいものや、灰色をした堅いものがあります。表面には格子（こうし）や【 】の形をした【 】の文様（もんよう）があります。これらは【 】との交流をしめすものと考えられます。



古代中国の春秋・戦国時代になると【 】で貨幣がつくられるようになります。【 】形の刀銭など、地域ごとにさまざまな形の貨幣がつけられました。秦が中国を統一すると、貨幣は、丸に四角穴の【 】に統一され、この形が以降近世まで使われ続けました。